

# 平成17年度 試験研究（事前）評価整理表

整理表1

試験研究機関名 衛生研究所

所管グループ 業務グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	実施期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				始期	終期				
1	2-3- 医薬品の安全対策等の推進		LC/MSによるいわゆる健康食品中未承認医薬品の一斉分析法の調査研究	いわゆる健康食品中の瘦身用成分・強壯用成分のうち問題となっている無承認医薬品成分は、成分毎に検査法が定められているため、検査結果がでるまでに時間を要しているうえ、一部の成分しか検査できない状況にある。このため、複数の成分を含んでいるいわゆる健康食品のLC/MSによる一斉分析法を検討することにより、迅速に検査を実施し、県民の健康被害を最小限に防止できる。	業務グループが実施している医薬品含有(疑)健康食品検査事業などの検体を用い、瘦身用成分・強壯用成分別にLC/MSにより一斉分析法を検討する。	18	19	A	県民の安心安全を確保するうえで、一斉分析法の確立に対する期待は大きく、積極的に実施すべきである。	苦情・健康被害が問題となる健康食品の無承認医薬品成分について、一斉に検査できることは、対応の迅速性に資するところが大きく、意義が高い。研究成果は県外にも発信してゆく価値がある。	機関として重点的に取り組むこととしている。また、研究成果については学会等において発表したい。なお、研究内容や手法についての変更はありません。
2	2-5- 生活用水の確保と上水道の整備		県内主要河川のクリプトスポリジウム汚染の実態について	環境水中からのクリプトスポリジウムオースト(休止状態の原虫)の同定に、形態的観察の他に遺伝子検査を取り入れることで、その精度を向上させる。	コントロールオーストを定法により処理し、形態的に確認した後、DNAを抽出(抽出法の検討)、公表されているプライマーを用いて標的領域を増幅する(1年目)、方法を確立させ、県内河川の実態調査を実施する(2年目)。	18	19	A	水の安全性確保は非常に重要であるので、身近な自然環境である河川のクリプトスポリジウム汚染実態を把握し、今後の環境衛生対策の一助とすべきである。	河川のクリプトスポリジウム汚染についての、正確な把握の助けになるもので優れた研究である。ゴールドスタンダードとなるDNAが得られる前提が確保される必要がある。検鏡の精度を上げるための補助となる方法である。	機関として重点的に取り組むこととしている。また、研究に向け国立感染症研究所よりクリプトスポリジウム及びジアルジアの病原体の分与を得ている。なお、研究内容や手法の変更はありません。